

春

JCニュース News

本誌
～春する長崎を創る
大きな原動力のために～
Junior Chamber
International
NAGASAKI
2018

2018
Vol.733 3

創 立 / 昭和27年12月1日
承 認 / 昭和28年2月7日
認証番号 / 36番
理 事 長 / 光富 英治
会 員 数 / 134名
編 集 / 一般社団法人 長崎青年会議所 広報委員会

JCI Junior Chamber International NAGASAKI
一般社団法人 長崎青年会議所

事 務 局 / 〒 850-0874 長崎市魚の町3番21号
(マリンハイツ長崎202号)
TEL 095-825-2709 FAX 095-822-5399
E-mail office@nagasaki-jc.jp
http://nagasaki-jc.jp/



Webサイトにアクセスできます

TOP NEWS

理事長挨拶

手作りランタン体験コーナー

- 長崎サミット / 2月定時総会 報告
- 出前講座「知ろう！郷土のこと」 報告
- 65年をプレイバック「長崎市子ども議会」 / 会員拡大だより
- 事業告知「第28回九州地区JCサッカー選手権大会in長崎」
- じゃがいも倶楽部 2月例会 報告



理事長挨拶

一般社団法人長崎青年会議所
第66代理事長

光 富 英 治



皆様、日々の社業そしてJIC活動お疲れ様です。さて、2018年度も3月に入りましたが、いかがお過ごしでしょうか。

まず2月を振り返ると、去る2月16日(金)から3月4日(日)において「長崎ラントンフェスティバル」が開催されました。今年は例年より2日間長く開催され、又長崎出身でアイドルグループ榊坂46の長濱ねるさんが皇后役で皇帝パレードに参加されたこともあり、途中の大雨によるイベント中止もあった中、約106万人という過去最大の来客数であったと報告がありました。その中で、18日(日)、25日(日)の2日間において地域推進委員会による「手作りラントン体験コーナー」が実施されました。約20年続くこの事業は、本当に観光客の方々、そして地域の方々に必要とされ、そのおかげで今日まで継続して行うことができいております。近年の長崎市では、地域資源を活かした

「人」の交流によって稼ぐ力を伸ばす「交流の産業化」を総合戦略の大きな柱として、「ひとを呼ぶまち」から「ひとを呼んで栄えるまち」が大きく打ち出されております。本事業は、少なからずこの「長崎ラントンフェスティバル」の集客に繋がっており、この集客がまちの更なる交流化の推進に非常に大きな役割を果たしているといえます。2日間の事業ですが、年末よりずっと準備をしてきた深堀委員長率いる地域推進委員会のメンバーの皆様、本当にお疲れ様でした。

又、2月の半ばには青少年育成委員会による「出前講座」が実施されました。この事業は、元々「長崎サミット」において若年層、特に小学生を対象に地域愛の醸成や将来的な地域への定着率向上を図るべく、総合学習の一環として計画されました。この事業を通して、長崎の地域資源について深く掘り下げ、その価値をしっかりと認識することができ、ひいては子どもたちの観光教育に大きく寄与することができたと思います。やはり、次世代の長崎を担っていくのは今の子どもたちであり、その子どもたちに対してどのような教育を行っていくのかを考えることが大きな課題であります。もちろん、現在の教育が悪いわけではないのですが、やはり人口減少が進むこの長崎において、いかにこの子どもたちが将来、長崎で進学、そして就職をしていくかを考えたときに、我々企業側の労働体系の整備や生産性の向上が必要であると共に、この長崎で働くことの重要性を今のうちからしっかりと伝えることも大事であります。本事業はそれを行っていく上での、非常に大きな第一歩になったと思います。安

中委員長を始めとする青少年育成委員会の皆様、お疲れ様でした。

更には、私自身としては去る2月19日(月)に「第16回長崎サミット」に出席し、長崎県知事や長崎市長と同じ席に並び、一経済団体として長崎の未来を担うべく、様々な発言をさせていただきました。私の理事長所信にも記載させていただきましたが、今後の長崎において新幹線の暫定開業やMICE施設の設置などが進む中、長崎においてどのような取り組みが行われるかは、各団体を始め多くの企業においても非常に注目されており、今回の長崎サミットでは主に、新幹線問題、長崎海洋都市構想、MICE施設の活用方法、各企業の生産性向上などについて議論が行われました。我々長崎JICとしては、先ほど取り上げた「出前講座」実施による若年層の教育、地域活性化の事業を含めたこの「長崎サミット」が取り組んでいる事業についてもより幅広く、市民の方々に浸透させるためのブランディング、情報発信方法について言及しました。各団体のトップの方々と肩を並べて発言する大変貴重な機会でありますので、これからも長崎を明るく豊かにすべく、そして青年らしく豊かな発想力と確固たる実行力を持って、強く発信して参りたいと思います。

又、去る3月2日(金)には、長崎商工会議所青年部、一般社団法人長崎青年協会、そして一般社団法人長崎青年会議所青年3団体による本年度の顔合わせがあり、出席して参りました。昨年度は、長崎JICが幹事となり3団体の取りまとめを行って参りましたが、本年度は長崎商工会議所青年部の中山次年度会長が幹事となり、進めていく方針となりました。

本年度の3団体としての取り組みは今のところ未定ですが、会において、昨年度に引き続き交流会を行うだけでなく、3団体共同による事業の実施や政策提言を行うなど、青年団体としてできることあらゆる可能性を模索しつつ、様々な議論が交わされました。参加して改めて思ったのですが、それぞれ団体としての指針や信条は異なりますが、やはり最終的に目指すのは長崎の更なる発展であると感じました。特に、他の会長とお話をさせていただいた中では、やはり長崎の現状に対して危機感を持たれており、深刻な人口減少問題や経済の低迷、労働者確保の問題など、経済的な不透明さを強く認識しておられました。これらの諸問題にも3団体で連携を図り、解決策を模索すべく、より一層の交流と共に多くの議論を交わし、実行して参りたいと思います。

最後になりますが、本年度の新人会員の面接まで約1か月となりました。予定者段階から拡大活動については、繰り返しお話をさせていただいておりますが、その期限もあと1か月で終わりとなります。より多くの志を同じくする仲間がこの長崎JICに入会していただき、明るい豊かな長崎の創造を担う一員となつて、これからJIC活動・運動の更なる原動力の強化を図っていきたいと思いますので、最後の最後まで全体事業であるこの拡大活動にご協力いただきますようお願い致します。季節の変わり目ですが、まずは第一に体調管理を怠らず、皆様がお体をご自愛いただければと思います。

長崎サミット



専務理事

山下 隆義 君

去る2月19日(月)、ホテルニュー長崎にて第16回長崎サミットに光富理事長と参加して参りました。皆様ご存じのとおり中村法道長崎県知事及び田上富久長崎市長の行政のトップ、そして宮脇雅俊長崎商工会議所会頭をはじめ経済界のトップが一堂に会する会議です。会議は篠原日本銀行長崎支店長を議長として長崎の地域経済の活性化について様々な意見・提言が出されました。

我々の代表である光富理事長も参加する「唯一」の青年経済人の団体として発言を求められ、我々の長崎のまちに対するアプローチ、次世代への繋がる活動を本年度のスローガンである「本気」という言葉とともに発信して参りました。

新幹線・MICE・「海」という資源・食

長崎に存在するそれらがこれからの我々が活躍する舞台として用意されているものであり、特に我々がその舞台の中心で活躍するべきではないかと感じました。

時代を変えるのは常に若者でありそれが有史以来連綿



と続いてきた事実であることを忘れず、活動を行うべきであることを再認識した会合でした。

2月定時総会



総務委員会

中島 隼人 君

去る2月13日(火)、ホテルニュー長崎におきまして2月定時総会が開催されました。定時総会の冒頭に昨年度ご卒業されました第65年度の理事・役員の方々をお招きし、第1号議案から第5号議案までの質疑応答が行われました。まずは、第1号議案 第65年度事業報告(案)承認の件については、各担当の副理事長から各委員会の事業の報告と1年間の御礼のお言葉をいただきました。第2号議案では、第65年度会計報告(案)承認の件について、65周年の記念事業、「SANTA RUN IN NAGASAKI」についての質問がありました。雨の中にもかかわらず多くの皆様に参加していただいた事業でしたが、一般参加の方々に喜んでいただき、多くの善意のある寄付金も集められたとの報告がありました。第4号議案 第65年度余剰金処分(案)承認については、JCまちづくり基金についての説明やこれまでの経緯、これから先の活用方法などについての説明がありました。又、現在長崎JCが抱える問題である会員数の減少に伴って、皆様からいただいている年会費の減少が継続事業の予算を圧迫している現状についてのお



話がありました。その他、すべての議案が承認されました。総会の最後には第65年度吉田理事長からのご挨拶がありました。JCという組織はメンバー一人ひとりに色々な役割があり、特に昨年度入会された24名のメンバーに対しては、本年度、第66年度に入会してくる新入会員に対して先輩になるという立場であり、約1年間JCを経験したことを一番新鮮な気持ちで伝えていく役割があるというお話がありました。第65年度、理事・役員の皆様お疲れ様でした。最後に、会員の皆様へは定時総会の議事運営にご協力いただき総務委員会一同心より感謝申し上げます。

手作りランタン体験コーナー



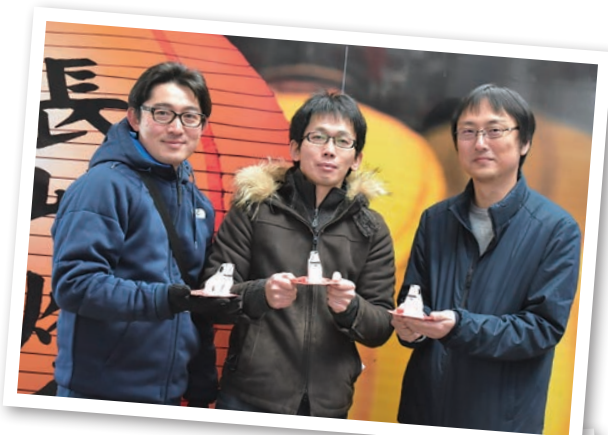
地域推進委員会

野田 敬三 君

去る2月18日(日)、25日(日)、ベルナード観光通り十八銀行前において、手作りランタン体験コーナーを実施しました。

開催期間中100万人以上の方が訪れ、長崎の冬の一大風物詩として定着した長崎ランタンフェスティバルでは、街中のあちらこちらで催し物が行われています。その中でも手作りランタン体験コーナーは子どもたちに大人気の催し物です。今年もたくさんのお子もたちが来てくれました。お父さん、お母さん、ご家族みんなで楽しめた手作りランタン体験は本当に良い思い出になったのではないのでしょうか。そして、今年はボランティアの方にもご協力いただきました。長崎が大好きだからこそ参加してくれた彼ら彼女らが、今回の2日間でもっと長崎を好きになってくれたらうれしいです。

今年のランタンはペーパークラフトや下蓋部分の銀紙と透明シートでバージョンアップを試みましたが、いかがだったでしょうか？とにかく下準備は大変でしたが、連日、委員会メンバーのみんでわいわいと作業を行った結果、委員会も一層まとまるようになったと思います。用意したキットは合計で約2,000セット。本番当日は、両日とも開始前から終了間際まで長蛇の列で、おかげ様で今年も多くの方々に楽しんでいただくことができました。その分忙しく、ご参加いただいた正会員の皆様も大変お疲れになったはず。ご協力いただいた皆様、本当に有難うございました。





出前講座「知ろう！ 郷土のこと」

青少年育成委員会

泉 翔太 君



去る2月16日(金)、長崎市立大浦小学校にて、5年生3クラス(88名)を対象に出前講座を実施致しました。当日は光富理事長、山下専務理事をはじめ、長崎県観光連盟様、長崎市教育委員会様にも会場に駆けつけていただきました。今回の出前講座は、長崎県総おもてなし運動の取り組みの一つとして、子どもたちに郷土についての学びを提供し、郷土愛を育むと共に観光のお手伝いができるきっかけづくりとして実施しました。はじめに大浦小学校の5年生の各クラスの代表の子どもたちから「オランダ坂」「旧上海銀行」「大浦天主堂」をテーマにした発表がありました。子どもたちが発表した内容の中には、私が知らなかったこともあ

り、子どもたちの資料の内容の充実に驚きました。次に、私たち青少年育成委員会メンバーが「知ろう！ 郷土のこと」をテーマとして長崎の歴史、文化、産業、食べ物について、池田裕介君、久保康平君を講師役として講座を行いました。子どもたちが積極的に参加できるように、クイズを交えるなど全員参加型の形式を取り入れたことで、子どもたちの笑顔や、手を挙げてクイズに参加したり質問をしてくれる子どもたちの姿を見ることができ、「この事業をやって良かった！」と思える瞬間でした。今回の出前講座は長崎JCとして、初の試みでもあり不安もありました。しかし、第一歩としてこの事業に参加できたことが嬉しかったですし、今後も依頼があれば実施したいです。





【第3回】

長崎市子ども議会



「子どもたちからの作文を受取る市長」

第47～50年度までの4年間にわたり、市内の小学校6年生を対象として長崎市議会議場にて長崎市子ども議会が開催されました。

この事業の目的は、子どもたちに地域社会が抱える様々な問題や感じている疑問などを子どもたちの視線で研究、協議していただき、それらを実際の市議会議場において、現職の市長・行政担当者に質問や問題提起、発表を行い、通常の学校授業だけでは学べない貴重な生の社会学習をしてもらうこと。更に議会運営の体験を通して行政への関心、又自分たちが暮らすまちでの身近な問題に強い関心を持って問題解決への能力を養うことにより、豊かな地域社会を担える青少年の育成を行うことでした。又、傍聴している大人たちに対して子どもたちが真剣に議論しているところを見せることにより政治離れを防ぎ、改めて関心を持ってもらおうというものです。

議会当日は「地球環境について」「教育問題について」「平和について」「交通問題について」などの多岐にわたるテーマで質疑を交わしました。

子どもならではの着眼点からの素朴な質問に伊藤市長(当時)をはじめとする市執行部の皆様が答弁し、子どもたちの活発な発言に参加者たちからは笑顔がこぼれたそうです。

最後に「こんなまちに住みたい」と題し、各校の代表者に作文朗読してもらいました。

当時の先輩方は、これを機会に行政と市民(民間)がもっともっと近づいて、良い関係が築いていければと思われたそうです。

昨今、政治離れと投票率の低下が社会問題になっていますが、このような事業が再び地域から必要とされているのかもしれません。

(広報委員会 桑畑 義治)

会員拡大だより

会員拡大委員会 副委員長 山下 泰人君

皆様こんにちは。会員拡大委員会です。

1月から始まった会員拡大活動も入会面接まで残り約30日となり、いよいよラストスパートです。

2月26日現在、入会申込書をいただいた方は2名と、目標人数には程遠い現状です。更に、今年度の面接日程は、例年よりも約2週間早いことを知っていますか？これから年度末の多忙な時期となりますので、早めのポイントとアプローチを宜しくお願ひします。

そして、3月例会に参加していただいた拡大対象者には、できるだけ早めにアプローチを行い、入会していただけよう、継続した会員拡大活動をお願いします。又、参加できなかった拡大対象者にも、より積極的な会員拡大活動をお願いします。

今年度の目標、30名必超！に向けて、全会員が当事者意識を持って、入会面接までの残り約30日、ご協力宜しくお願いします。



協働推進委員会

運営幹事 平岡 祐司 君

来たる4月7日(土)・8日(日)長崎市総合運動公園において「第28回九州地区JCサッカー選手権大会in長崎」が開催されます。

九州地区の各LOMより現役会員と特別会員合わせて約600名の参加が予測され、白熱した本気の試合が繰りひろげられます。運営をするに当たり、人員配置など様々な役割があり、特に細部に至るまで安全かつ円滑に運営ができるように長崎JCメンバー皆様にもご協力をお願い

致します。又、各LOMの選手には大会をより楽しんでいただくために1日目には大会企画として「サッカーダーツ選手権」を開催します。ルールはダーツと一緒に3回蹴って合計得点を競い合う内容となっており、上位入賞者3名には長崎の魅力を打ち出した豪華景品をご用意しております。そして大会2日目には決勝トーナメントを行い、最後は3位決定戦と決勝戦の熱い戦いが行われます！いろいろ盛りだくさんの2日間になっていますので、参加される各LOMの皆様到最后まで楽しんでいただける大会運営を目指します。

もちろん、長崎JCサッカー部も出場します！ご声援よろしくお願い致します！！

クラブ活動

じゃがいも倶楽部 2月例会

じゃがいも倶楽部

第66年度代表幹事 **田崎 康介 君**

去る2月17日(土)、喜々津カントリー倶楽部にてじゃがいも倶楽部例会を開催しました。当日は絶好のゴルフ日和の中、光富理事長による始球式でスタートしました。道中はフィギュアスケートを見て、羽生君と宇野君に無駄な刺激を受けながら楽しくラウンドすることができました。又、ゴルフ終了後の懇親会にも多くの方にご参加いただき、特別会員と現役会員との懇親を深めることができました。今年は例会後に毎回懇親会を開催します。ゴルフのみの参加はもちろん、懇親会だけの参加も大歓迎ですので是非皆様のご参加をお待ちしております。今回はGW前の4月27日(金)に開催しますので、今のうちから予定を空けておいて下さいm(__)m

順位	氏名	OUT	IN	GR	HDCP	NET
1	中川 崇	48	45	93	23.0	70.0
2	瀬戸口裕正	52	46	98	24.0	74.0
3	峰 栄樹	45	47	92	18.0	74.0
4	西田 典弘	55	45	100	18.0	82.0
5	川端 英之	45	57	102	20.0	82.0
6	田崎 康介	46	61	107	25.0	82.0
7	山道 英樹	52	59	111	28.0	83.0
8	熊谷 秀一	56	57	113	30.0	83.0
9	末永敬一郎	56	57	113	30.0	83.0
10	池田浩太郎	57	52	109	25.0	84.0
11	山口 潤	52	58	110	26.0	84.0
12	鳥居 洋介	51	49	100	14.0	86.0
13	山下 直之	51	57	108	19.0	89.0
14	小柳 真一	58	70	128	30.0	98.0

